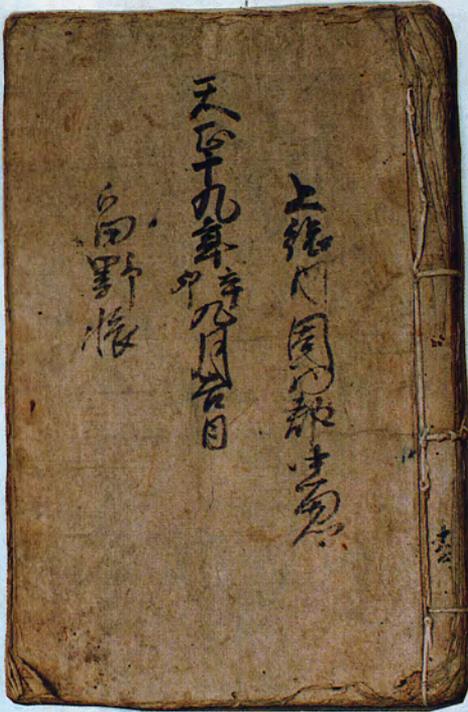


中宮郷土誌

君津市中宮郷土誌編集委員会

中富郷土誌



田野帳
 天正十九年九月廿日
 島野帳

田野帳
 天正十九年九月廿日
 田野帳

天正十九年九月(1591)400年前、中富の田島の面積、耕作者を調査したものである。
 田野帳 60 ページ、耕作者筆数 238 筆
 島野帳 91 ページ、耕作者筆数 353 筆



延寶二年寅四月十二日(1674)貞元、中富境界裁定絵図
中央横線が現在の河原山 100 cm × 210 cm



延寶五年巳四月(1677)大和田、中富境界裁定絵図
中央の加印場所を中富(伽藍)大和田の境と決定 120 cm×200 cm

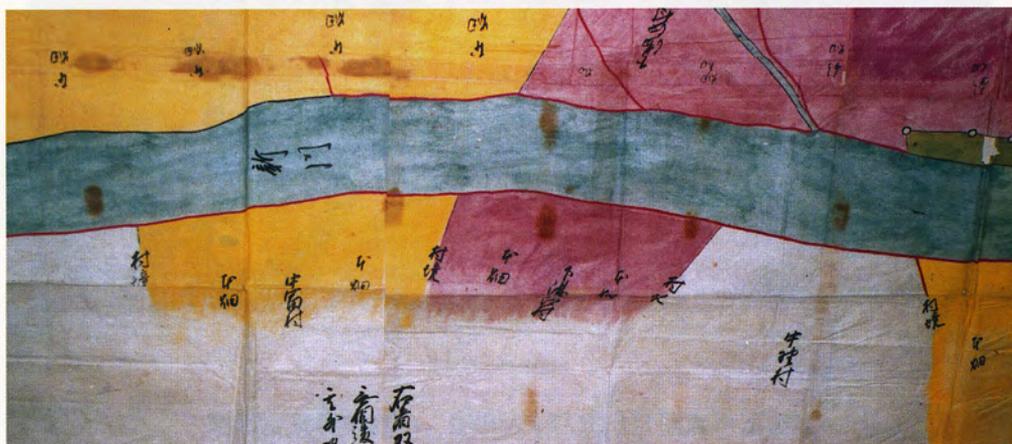
所蔵する絵図



中富、貞元、境界控絵図 延寶二年 100 cm×210 cm

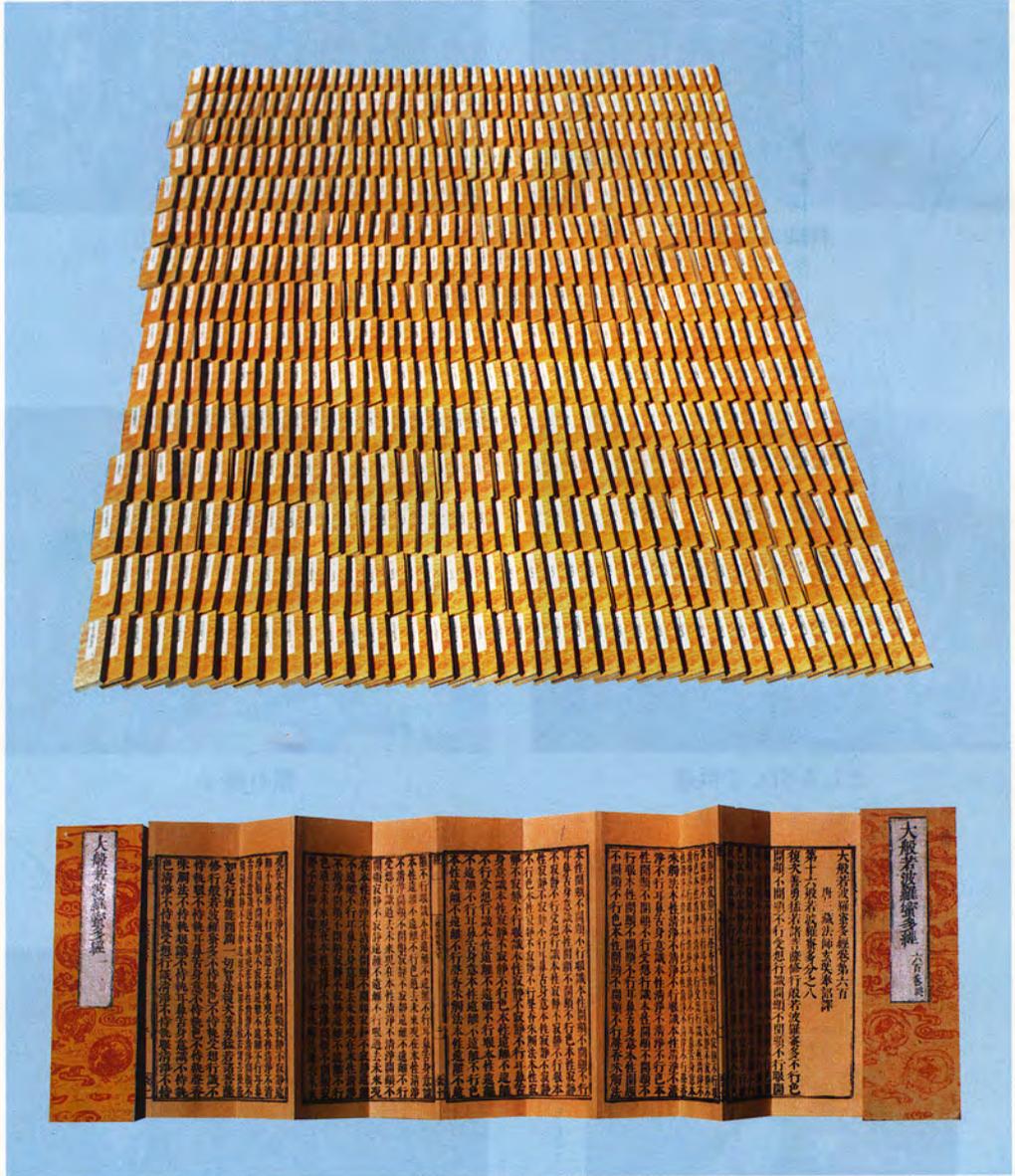


新川掘削場所願い絵図 元禄十四年 180 cm×180 cm



新川完成、寶永六年 境界図 120 cm×180 cm

大般若波羅蜜多經典六百卷



中富、富西寺所藏
弘化元年(1844)檀家寄進



神輿の渡御



お旅所 小糸川堤防
(H. 9. 10. 9)



だしを引く子供達
(H. 9. 10. 9)



祭り囃子



お日待ち



お日待ち



石上神社 鳥居再建
(H. 7. 9)



富西寺霊園完成
(S. 52. 3)



講と女達
観音講



百万講
毎月満月の夕方



恒例の野焼き



お盆の13日
提灯を持って墓参り



関東大震災座談会



中富区有文書調査
房総史料調査会 (H. 3. 8. 31)



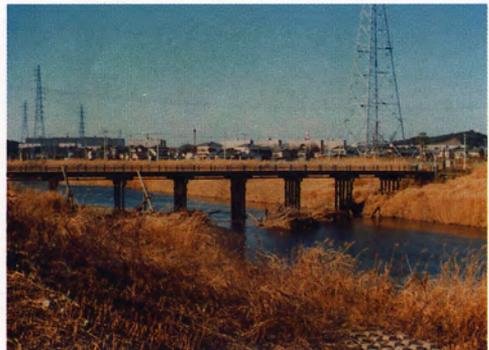
道路決壊
(S. 45. 7. 1)



村普請 U字溝敷設
(H. 4. 2)



後生橋 (1710 ~ 1950)



後生橋 (1950 ~ 1982)



発刊にあたって

中富郷土誌編集委員長 石川 昭

平成六年三月、自治会総会の際、中富郷土誌の編纂へんさんについてご賛同を戴き、この度ようやく発刊の運びとなりました。区民の皆様方には調査や資料の提供にご協力いただき深謝申し上げます。

発刊のきっかけとなったのは、言うまでもなく平成三年八月下旬から始まった房総史料調査会による、中富区有文書の調査でありました。天正時代から代々の村役人によって大切に保存されてきたと伝えられる古文書には、ほとんど虫喰いの跡もなく、また延寶二年（一六七四年）に境界確定のために書かれた大きな絵図二点、その他数点、真新しく年代を感じさせない保存の良さに驚きました。

総勢二十数名により三日間にわたり、手際よく作業は進められ、古文書を次々とマイクロフィルムに収める者や、皺しわになった三百年前の文書をすらすらと読みながら、ノートに書き写している姿もまた驚きでした。その後、四回の調査、整理が行われ約六百点を越す文書は、すべて防虫封筒に内容を表記して入れられ、全文書の目録が整理されて終了しました。

夏には虫干しをして銀杏いちょうの葉を間に挟んだと伝えられていますが、文書の内容については、今まではほとんど知る人はありませんでした。

今回の調査により、文書の総数や内容の分類が出来ましたので、一部の古文書を紹介しながら人々のくらしを記録に留めたいということによって編集をしました。

発刊することが決まってから四年、重荷を下ろした感じですが、不足のところは次に引き継がれることを期待します。自治会の皆様の温かい御支援に感謝申し上げ発刊の言葉といたします。

平成十年三月



発刊に寄せて

君津市長 若月 弘

四百年も前から大切に保管されてきた中富区有文書の調査が六年半の歳月をかけて行われ、このたび「中富郷土誌」として発刊の運びとなりましたことは、中富地区の皆様はもとより君津市にとりましても誠に意義深いことであり、長い間発刊に向けてご尽力されてまいりました石川昭編集委員長をはじめ編集委員の皆様に対しまして、心から敬意を表する次第であります。

中富地区は小糸川の下流域に位置し、北側に小糸川、南から西に江川が流れており、昔から洪水に悩まされてきた地域でありました。

今回発刊された郷土誌により、昔の人々がどのように度重なる洪水と闘い、それを克服していったのか、また、洪水に伴う境界争い、あるいは当時の人々の生活の様子、各種の行事等が明らかにされることでありましょう。

そして、このことは、現代に生きる私たちにとって、また、私たちの後輩にとって、貴重な財産となるものであります。

昨年十二月には夢のかけ橋といわれておりました東京湾アクアラインが開通し、君津市は今、新たな飛躍の時代を迎えておりますが、私たちの郷土君津の今日の発展や文化が多くの人々の先人たちの英知と努力によるところであることを理解し、君津で生まれた文化・伝統を絶やすことなく伝えていくことは極めて大切なことだと思えます。

本書が、中富地区の皆様のみならず多くの市民の皆様にも愛読され、あるいは歴史の資料として活用され、君津市の発展並びに市民文化の向上に寄与することを願いたします。

平成十年三月



発刊に寄せて

房総史料調査会 針谷 武志

房総史料調査会は千葉県域の在地の歴史史料の調査・整理を行い、保存のお手伝いと、研究を行うことでささやかでも地域に還元しようと活動している自主的な会です。

私の中富を初めて訪れましたのは、平成三年（一九九一）八月五日のことでした。当時、新しい史料調査先を求めて、君津市史編さん室のご紹介を得て、調査担当であった立野晃さんと私とで、中富自治会長さんを訪ねたところ、趣旨のご賛同を戴き、八月の末から中富区有文書の調査・整理を始められました。

調査をはじめ、すぐに大変良質な史料群であることが判りました。そのため中富区有文書の整理は小規模なものも含めて五次にわたりました。これほど長期になるのは、私たちの調査でも珍しいことでした。公会堂や富西寺をお借りして、私たちに史料整理の場を与えて下さったことに大変感謝しています。

私たちはこの史料群を通して、いろいろ勉強することができました。例えば昭和期の道路の史料に、関連する江戸時代の文書と一緒に保管されていて、中富の人たちが、近代になっても大事に文書を活用していたことを、現状の記録から知ることができました。そしてその気持ちがある現在の中富の人たちにも引き継がれていることを感じました。私たちが調査していると必ず、差し入れをしてくださり、一緒に文書について話し合いました。文書を保管する方々とのふれあいができたことは、一番の勉強であったと思います。

その時の調査が、地域の皆さん自身の手で生かされ、今回発刊の運びになったことは、この上ない感激と喜びであります。区有文書という地域の文化遺産に、またひとつ宝物が追加されたことを喜び、その労をとられた方々への祝辞とさせていただきますと思います。

平成十年二月吉日

目次

発刊にあたって 君津市中富郷土史編集委員長 石川 昭
 発刊に寄せて 君津市長 若月 弘
 発刊に寄せて 房総史料調査会 針谷武志

中富の人々のくらし

伽藍から中州に移住 20
 洪水による地勢の移り変り 21
 古文書にみる中富の人達 23

第一章 農 業

第一節 中富村年貢割付状 26
 所蔵される割付状一二八点
 第二節 中富村年貢皆済目録 32
 所蔵される皆済目録一二五点
 第三節 上総内周西郡中富郷畠野帳 38



第二章 生 活

第四節	中富村の領主	40
第五節	旧川跡開拓並びに割当	41
第六節	金堀六郎右衛門畑之一件	42
第七節	中富村明細書上帳	43
第八節	水車新調諸費帳	44
第九節	早乙女	45
第十節	新田検地	46
第一節	上総国周准郡中富村小物成指出し帳	48
第二節	人別送状	50
第三節	鉛つくり四〇軒	51
第四節	相渡申質地證文之事	53
第五節	養 蚕	54
第六節	職工賃錢議定	54
第七節	種痘と人名簿	55
第八節	幟旗修繕について	58
第九節	結婚式	59
第十節	葬 式	60
第十一節	お茶葉造り	61



第三章 願書

第十二節	公会堂	62
第十三節	河原山	63
第十四節	空襲下の生活	65

第一節	大洪水、中富を砂で埋める	68
第二節	江川堤防普請につき嘆願	70
第三節	商人規定書	71
第四節	江川用水閘枠伏替入用目録見帳	72
第五節	新規墓地願	73
第六節	富西寺本堂取崩願	74
第七節	養水車設置願	75
第八節	土地私有の法認	76
	開墾願、伽藍野地民有地確定	
	小糸川寄州地の払下げ願	

第九節	渡船場賃銭願	77
-----	--------	----

第四章 境界争い

	小糸川の流路の変遷に伴う近隣との争議	
第一節	中富村と貞元村	80



第五章 災害

第二節	中富村と大和田村	81
第三節	中富村と中野村	81
第四節	中富村と下湯江村	82

第六章 取締り

第一節	洪水による皆損免状	86
第二節	安政大地震	87
第三節	関東大震災・座談会	88
第四節	洪水と河川改修	90

第七章 信仰

第一節	宗門人別帳	98
第二節	出羽三山信仰	100
第三節	講とのかかわりあい	102
	古峯講、御嶽講、成田講、富士講、江戸講、えびす講	



第八章 教 育

第四節	講と女の人達のかかわりあい	107
	観音講、七夜講、子安講、百万	
第五節	大乘妙典書寫塔	109
第六節	大草平内廟	110
第七節	大般若波羅蜜多經六百卷	111
第八節	お参り	112
	七天王まいり、伊勢、金比羅、善光寺参り	
第九節	不動堂	113
第十節	中富共同墓地とお盆	114
第十一節	小糸の作 薬師尊札所とお開帳	116
第十二節	馬頭観音様	118
第十三節	石上神社	121
第十四節	富西寺	123
第一節	貞元小学校開校と備品申請	126
	教場造営に付人夫日割記	
第二節	小学校生徒等の害虫駆除の通知	128
第三節	虫とり	128
第四節	農繁期休み	130

第五節 服装・賞状・進学……………132

第九章 行事

第一節 お日待ち……………134

第二節 祭り囃子と神輿……………136

第三節 土手の草刈り……………138

第四節 さなぶり、川びたり、宮薙ぎ、茅取り……………139

第十章 懐かしい行商人・あそび

第一節 行商人……………142

鑄掛屋、鶏屋、ぼて、下駄の歯入れ

第二節 男の人達のあそび……………144

わっぱ回し、ちから石、コマ回し、流し針

メンコ、デエー(ドォー)、どじょうぶち

カンキ、ボツカブセ、ツツツキ網、唐人風

ポコペン

第三節 女の人達のあそび……………152

ゴム跳び、縄跳び、石けり、チョンパタン

お手玉、おはじき、あやとり

軍事編

第一章 歓呼の聲におくられて……………157

第一節 外地出征従軍手記……………158

第二節 中富軍籍名簿……………164

第二章 戦没者墓碑銘……………177

家紋と屋号……………183

自治会役員……………189

編集後記……………191

編集委員、他……………191

(表紙題字 石川 昭)